

# 当院で臨床実習をされる学生の皆さんへ

## 医療安全オリエンテーション

社会福祉法人<sup>恩賜財団</sup>済生会滋賀県病院 安全管理室

病院の医療安全において、患者さんの安全を最優先に考え、医療行為が安全に行われるように医療従事者としての知識と技能の向上、医療事故やエラーの防止、さらには医療機関全体での医療安全文化の醸成が求められます。臨床実習をされる皆さんも当院の医療者(チーム)の一員ですので、以下の医療安全の基本的なポイントを理解していただき、共に医療安全行動に取り組みましょう。

### 1. 当院の医療安全に関する基本的な考え方

安全で質の高い医療を提供することは、すべての医療従事者の責務であり、病院職員ひとりひとりが、医療安全の必要性・重要性を自分自身の課題と認識し、最大限の注意を払いながら日々の医療に従事せねばなりません。

病院は、医療の安全管理、医療事故防止の徹底を図るため、「人間はエラーをおかす」という観点到に立ち、個人の責任追及ではなく、医療安全管理システムの問題として捉え、院長、統括責任者(安全管理室長)、医療安全管理者、医療安全管理委員会を中心として有機的な体制を構築し、組織横断的に取り組むことを基本姿勢とします。

### 2. 医療安全の推進

医療安全を推進するために、医療者は以下の項目を常に心がけなければなりません。

#### (1) 医療者と患者の良好な関係を作る

良い人間関係がないところに良い医療は存在しません。さらに医療安全を進展させるためには、チームとしての医療関係者間の人間関係も重要です。

#### (2) エラーが発生しても誰も非難しないようにする

人間は必ずエラー(間違い)をします。エラーを非難されれば人間は誰でもエラーを隠したくなります。エラーが起こっても医療者を非難するのではなく、患者に被害が及ばぬよう組織全体で最善を尽くすのが医療安全の考え方です。よって、エラーしたことは必ず報告しなければなりません。

#### (3) 根拠(エビデンス)に基づいたケアを実践する

医療は科学的行為です。患者になされる行為は独りよがりなものではなく、科学的な根拠がなければなりません。

#### (4) 患者の医療の連続性を維持する

入院する患者は検査・手術室・病棟等多くの場所を回ることになります。患者は1人ですが患者を担当する専門の医療者は多く、医療者は患者の医療がきちんと連続するよう患者の情報を共有しなければなりません。

#### (5) セルフケアの重要性を認識する

患者のケアを行う医療者は、自分自身の心身を良い状態にしなければなりません。自分自身のケアがきちんとできない医療者は患者から信頼されません。

#### (6) 日頃から倫理的な行動をとる

病院は患者にとって最善を尽くす場です。医療者は、常に倫理的な(正直な)行動をとらなければなりません。

### 3. 医療の安全と質を高めるための良好なチームワークのコツ

医療事故の半数以上がヒューマンエラーのノンテクニカル<sup>\*</sup>な要因で発生しています。以下はチームステップス（医療の質と安全を向上させるためのチームワークシステムのこと）の一部のツールです。チームのパフォーマンスと患者安全を高めるためのコミュニケーションのポイントを理解して実践しましょう。

※ノンテクニカル：専門的な知識や技術ではなく、人間と人間の関係性を重視した認知的、社会的スキルのこと

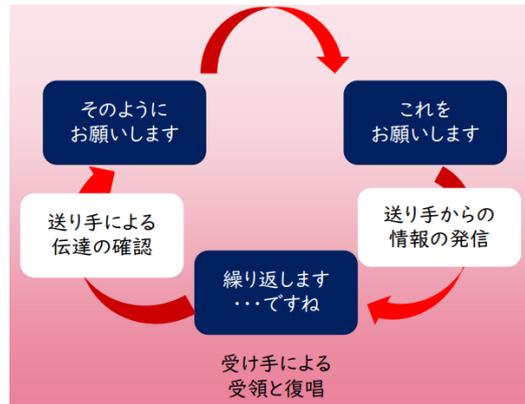
#### (1) ISBAR

対応が必要な患者の状態に関する情報を正確に伝達するためのテクニック

- I (Identify)** 自己紹介：自分の名前、患者の氏名・部屋  
「〇〇病棟の〇〇です。□□号室の□□さんが…」
- S (Situation)** 状況：患者に起こっている状況を伝える  
「多量の嘔吐がありました」
- B (Background)** 背景：患者の経過やバリエーション等を伝える  
「〇〇の診断で〇〇治療中の患者です。ここ数日症状はありませんでした」
- A (Assessment)** 評価：身体所見から考えた評価を伝える  
「原疾患が急激に悪化しているかもしれません」
- R (Recommendation)** 提案：相手に具体的な行動を提案する  
「すぐに診察をお願いします」

#### (2) チェックバック（復唱）

数量や単位等の伝達ミスを防ぐためのテクニック



#### (3) 2回チャレンジルール

正当な議論なしに提案が無視された場合に、自分の責任で最低2回は意見を主張する活動のこと



#### (4) カス (CUS)：心不全

事故が発生するまでのプロセスでスタッフが「違和感を感じた」という事例が多くある。不安に感じていることは声に出して伝えましょう

- C** I am Concerned 「心配」
- U** I am Uncomfortable 「不安」
- S** This is a Safety Issue 「安全」  
(STOPの“S”「中断してください」)



### 4. 患者誤認防止について

医療安全は患者誤認による重大医療事故を契機に発展してきました。患者誤認は重大な医療事故をもたらしますので、安全な医療の提供には患者誤認防止が大原則になります。当院は入院中すべての患者にリストバンドの装着をお願いしています。

#### (1) 患者確認の基本

- ① 「患者にフルネームで名前を名乗ってもらう」  
返答可能な場合：患者本人に名乗ってもらい確認  
発語不可能な場合：介護者に名乗ってもらい確認
- ② リストバンド(入院中)、基本カード・受付表(外来)、診察券、カルテ画面での氏名情報を「指さし呼称確認」しながら照合する

#### (2) 誤認防止対策

ヒューマンエラーの発生要因として代表的なのが「確認不足」と言われています。「確認」の精度を高める方法として「指さし呼称」が効果的ですので遵守しましょう。

指さし呼称とは・・・

操作・確認対称を「指で指し」、名前を「呼称して」確認する一連の作業である。指さし呼称は他産業で開発されてものであるが、ヒューマンエラー防止に有効ということで医療現場にも広く導入された。指し呼称を行うと何もしない場合に比べ、エラーを6分の1に減らすことができるといわれる。多重業務な医療現場で目の前の業務への意識を取り戻し、安全に作業を行うためのツールである。



